

令和 7 年度 八王子市立宮上小学校経営計画

学校教育目標

みなぎる力

やさしい心

考える知恵

見わたす世界

1 学校教育目標について

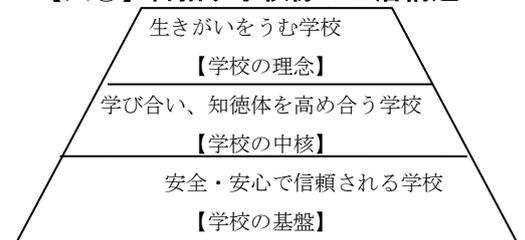
本校の学校教育目標は、「み～みなぎる力」・「や～やさしい心」・「か～考える知恵」・「み～見わたす世界」である。ここには、知(考える知恵)・徳(やさしい心)・体(みなぎる力)の育成を基本として、世界を見渡す人を育てるという夢が描かれている。この目標には、平成元年の開校以来本校に関わってくださっている方々の願いも込められていると考える。

2 目指す学校像

学校目標の実現にあたり以下の3点を「目指す学校像」とする。

- 1 安心・安全で信頼される学校【学校の基盤】
- 2 学び合い、知徳体を高め合う学校【学校の中核】
- 3 生きがいをうむ学校【学校の理念】

【図①】 目指す学校像の三層構造



この3つの要素は、どれも学校に欠かせないとする。

安全・安心と信頼を基盤として、大人も子どもも学び合うことを中核とした学校で、生きがいを生むことを目指していく。図示すると、【図①】のとおり三層構造で表すことができる。

3 中期的目標と方策

◇学校の基盤 ～「安心・安全で信頼される学校」

「安全・安心なくして学校なし」であり、これは学校の基盤である。「安全・安心」には主に物理的(環境的)な面と精神的な面があり、そのどちらも確保することで保護者・地域の信頼を得ていく。評価指標としては学校評価・出席率を想定している。

(1) 物理的(環境面)の安心・安全の確保

- ①施設・設備・遊具などの安全点検を全教職員で毎月実施、記録、報告。不具合に対しては即時対応する。
- ②全校共通の生活のきまり「宮上小の一日」を確実に指導する。
- ③全教職員で子供たちの見守り・声かけ・安全確保・生活指導に取り組む。
- ④週3回の清掃により、教室環境を整え、子供たちが誰でも落ち着いて学習できる環境を作る。

(2) 精神的な面の安心・安全の確保

- ①児童が安心して学校生活を送れるようにするため、月例アンケート・個別面談・5年生へのカウンセラー全員面談(グループ面談含む)、高学年でSOS教育を実施する。
- ②教員は常にアンテナを高くして子供の様子を観察し、子供の声に耳を傾け、子供に語りかけ、気になる子供がいたら全体で情報共有する。
- ③週一回行う教員全員参加のいじめ対策委員会において気になる児童の様子を全体で共通理解し、また共通の方針のもと指導に当たっていく。更に全学年で、いじめ防止授業を実施し、いじめを自分たちの問題としてとらえ、主体的に考え、話し合い、行動できるようにする。

この他、宮上中学グループ（宮上中・下柚木小・宮上小）で作成した「宮上スタンダード（小中一貫生活指導資料）」の取組を通して「安心・安全で信頼される学校」づくりを推進する。

(3) 今日の課題への指導を通じた安心・安全の確保（高学年対象）

- ①がん教育の推進
- ②闇バイト等への注意指導

(4) 保護者・地域と連携した安心・安全の確保

- ①学校運営協議会との連携
- ②登下校の安全確保 登校見守りなど
- ③地域の防災協議会との連携
- ④学校の活動や子供の様子を発 HP 等で発信

(5) 信頼される学校であるために

教職員の遵法精神やサービス意識を高める。

校長・副校長は、管理職として教育課程・人・物・金の管理及び教職員の身分上・職務上の監督に努める。教職員は「信頼はコミュニケーションから生まれる」という意識をもつとともに、「挨拶」「時間を守る」「気持ちの良い言葉づかい」について、まず自らが範を示す姿勢を見せるよう心掛けさせることで、サービスゼロを目指す。大人が子供の範となることは教育の基本である。

学校への信頼感についての評価の指標としては学校評価を想定している。

◇学校の中核 ～「学び合い、知徳体を高め合う学校」

学び合い、知徳体を高め合うことは、学校の中核である。

宮上小学校を、教員も子供も学び合い、高め合う学校としたいと願っている。この項について
の評価指標は、学校評価・学力調査・体力テストを想定している。

(1) 学び合いのある授業・活動の実施

- ①主体的、対話的で深い学びの考え方を取り入れた授業
- ②図書資料を活用した学びの促進
- ③読書に親しむことを通して、子供の豊かな情操や語彙力、考える力の育成
- ③ICT 機器の効果的な活用（意見の集約・共有等）
- ④特別活動の充実（たてわり班活動・運動会、学習発表会等の行事、学級活動・その他）

(2) 学びを実感できる授業・活動の実施

- 単元・題材のまとまりを見通した学び（単元のゴールを意識した指導計画）
- 自分の学びや変容を自覚させる振り返り（理解の確認・価値付け・補習）

(3) 道徳意識の向上

- ①道徳授業を中心に教育活動全体を通して（別様を意識）
- ②道徳授業地区公開講座（家庭や地域との連携）

(4) 体力向上に意識

- ①体育科授業の充実（体力テストの結果を生かす）
- ②体育朝会の実施
- ③体育旬間「なわとび」「持久走」の実施

◇学校の理念 ～「生きがいをうむ学校」

「生きがい」という言葉の意味を辞書で調べると「生きることの喜び・張り合い」と書かれている。つまり周りの誰かから判断されるものではなく、それぞれ個々の人間が「励み」や「心の支え」になるものということになる。

では学校における子どもたちの「生きがい」とは、何なのかを考えたとき、それは、授業における一人一人の子どもたちの「できた！」「分かった！」という自信や学校生活における「役に立っている」「必要とされている」という実感により生まれるものではないかと考えた。子どもたちには、そのような自信や実感をもてるようにしていきたい。

教職員については、日々の教育活動を行うことにやりがいを感じるためには、伸び伸びと自らの力を発揮できる環境が必要である。更に、教職員・保護者・地域の方々が宮上小学校の活動を通して関わり合う中で、子供のために行っている活動が「自分にとってもやりがいがある、楽しい、充実している」とポジティブに感じられるようにしていきたい。そのためには、教員の働き方改革を進めていくことも避けては通れない。教職員のやりがいを高めていくと共に、働き方改革を同時並行で進めていく。

(1) 子どもたちの「生きがい」を生むために

①「できた！」「分かった！」と自信をもたせる

- ・自信の指標・・・①授業アンケート満足度90%以上
- ②4年5年6年学力定着度調査正答率50%以下0人
- ③6年八王子ミニマム正答率70%以下0人
- ④単元末テスト正答率60%以下0人

②「自分は役に立っている」「必要とされている」という実感をもたせる

- ・実感の指標・・・学校生活アンケート満足度90%以上

(2) 子どもたちの「生きがい」をうむ指導や活動のために（教職員の働き方改革）

①力を発揮できる環境

- ・教職員同士が互いの良さを学び合う（校内研究、OJT、学年会）
- ・教科担任制（高学年）、副担任制の導入
- ・教職員の日々の頑張りを保護者・地域に発信

②働きやすい環境

- ・課題や問題への組織対応（相談・分担・フォロー）
- ・月1回程度、会議なし日の設定
- ・業務の効率化